

閉会のご挨拶

2月に台北大会の参加者、発表者の募集を始めたときには、集まるかどうか大変心配しておりました。けれども、いざふたを開けてみると、日本だけではなく、韓国、中国からも多数の発表希望者が応募してくださり、その結果、口頭発表者をしばって、多くの方にポスター発表に回っていただくことになってしまいました。

なお、その後、大陸からの参加希望者のうち数人の方が、諸般の事情により参加を見送ることとなったのは、大変残念です。

今回の発表は、アジア各地の各時代の鑄造技術に関する題材が含まれていました。時期としては、商、東周、漢、北朝、隋唐、宋、現代について、また、扱われた地域は中国、朝鮮半島、日本、台湾、ギリシア、ネパールについて、と、多様でした。

今回おこなわれた発表についてみると、各地の個別の遺物、技法を深く掘り下げる研究が多かったように思います。

しかし、鑄造技術は、人類史上の技術の中でも特殊な高度な技術ということができ、また、権力と絡む技術でもあります。そして、広い範囲に伝播していくという現象が見られます。よって、アジア各地の技術は互いに深く相関関係があるといえます。ですから、わたしたち各国の研究者は相互に各地の研究成果の交流を深め、より深く、広く、鑄造技術の研究と解明をすすめる必要があります。

ところで、各国の研究者が交流するには、言葉の壁が大きくたちはだかります。しかし、今回はそうした問題を少しでも軽減して、躊躇なく発表できるように、母国語で発表して英語のPPTと概要で聴衆の理解を補うという試みを行いました。今後も、工夫を重ねながら、いっしょに研究をすすめてまいりましょう。

そして、学会誌 FUSUS では、日本語だけでなく、中国語、韓国語での投稿も歓迎しております。皆様のご投稿をおまちしております。

これにて、アジア鑄造技術史学会 2017 台北大会を閉幕いたします。次回は東京でお目にかかりましょう。

台北大会実行委員長 内田純子

(2017年8月26日 台北大会 中央研究院歴史言語研究所)